

鹿児島県立川内高等学校

校長通信

第9号 (令和8年10月1日/校長 大倉秀心)



校訓「自律 敬愛 剛健」

鹿児島県薩摩川内市御陵下町6番3号



電話 (0996) 23-7274

FAX (0996) 22-1542



ボランティア

7月18日(土)の夜、大小路の八坂神社で夏祭りがありました。本校からは書道部が舞台上で書道パフォーマンスを披露し、観客からは大きな拍手が送られ、地域の人々にひとときの楽しさを提供していることに校長として大きな喜びを感じました。

パフォーマンス後、舞台袖で後片付けをしている部員の皆さんや顧問の先生に労いの言葉をかけていたとき、書道部ではない本校生も後片付けに混ざっているのに気付きました。

「あれ? 書道部?」と私が聞くと、「いいえ、〇〇部です」と、その男子生徒は答えます。「自分の時間もあるだろうに、協力ありがとうね。」と私が言うと、「僕、いろんな手伝いすることが好きなんです」と笑顔で答えてくれました。

このやりとりをしながら、私は少なからず驚きと感動を覚えたのですが、徒歩で帰宅する道すがら、いろいろと考えたのです。「結局、こういう人材がどんな職場でも重宝がられるのだろうか。自分にできることを人からあれこれ言われなくても率先して行動に移すような人材が。」

ボランティアを通して、自分に何ができるか、人が何を求めているのかを実際に体感し、職業観を養っていく。これこそキャリア教育の土台にもなるものだし、ボランティアが持つ最大の魅力なのかもしれません。この男子生徒には、このまま真っ直ぐ大人へと成長して、様々なボランティア体験から得た知識や能力を活かし、将来は組織を束ねるような人材に育ってくれることを期待しています。

川内大綱引でも

9月22日(火・祝)、川内最大の行事、川内大綱引が開催されました。国の重要無形民俗文化財や鹿児島県の無形民俗文化財にも指定されている由緒ある伝統行事です。当日は朝早くから、総勢約1,500人ほどの人々が半日以上かけて365本の縄から3本の

綱を経て1本の大綱へと練り上げました。長さ365メートル、総重量約7トン誇る日本一の大綱を、約3,000人が熱気と興奮の中で引き合いました。

その大綱の綱練りに本校からも130人ほどの生徒がボランティアで参加してくれました。部活動単位や個人で参加してくれた生徒の皆さん、本当にありがとうございました。私も綱練りの様子を見せてもらいましたが、結構な重労働であることがわかりました。多くの人の協力がなければあの綱は完成しないことも実感できました。地域の大切な伝統行事の継承に生徒の皆さんが自主的に関わってくれていることを校長として誇りに思います。開会行事で綱練りに協力した団体の紹介がありましたが、「れいめい高等学校、川内高等学校、川内商工高等学校」としっかりアナウンスされ、地域を支える高校としての連帯感も同時に感じることができました。

「ここに生まれたことに感謝」

川内大綱引が行われた翌日の夕方のニュース番組では、上方一番太鼓を務めた中原さんという方が特集されていました。

「上方・下方、それぞれに一番太鼓から十番太鼓まで10人ずつで構成される太鼓隊があり、その太鼓隊が打ち鳴らす太鼓の音に合わせて引き隊は綱を引きます。その太鼓隊の統率を取り、全体に引けの合図を伝えるのが一番太鼓です。」(川内大綱引保存会ホームページより引用)

一生に一度しかできない名誉ある役職を真剣な眼差しで懸命に務めあげている様子が映像から伝わってきました。中原さんのお父様もかつて一番太鼓を務めたそうで、歴史と伝統が継承されていることも素晴らしいと感じました。その中原さんがインタビューに答えている言葉の中で私が最も印象に残った言葉が、「ここに生まれたことに感謝したい」という言葉でした。

427年目

川内大綱引は今年で427年目だそうです。427年前といえば、1599年。1600年に起こった関ヶ原の戦いの前年です。一説によるとその関ヶ原の合戦の際、第17代島津義弘が兵士の士気を高めるために行われたのが川内大綱引きの起源と言われているそうです。壮大な歴史を感じますね。

中原さんがお父様の世代から川内大綱引を引き継いでいることをテレビで見て、ふと次のような疑問が浮かびました。

「427年前とは何世代前なのか？」

この疑問をAIに尋ねたところ、即答で返ってきた答えが以下の通りです。わかりやすかったのでそのまま引用します。

427年前(西暦1599年・慶長4年頃)は、1世代を何年と計算するかによって異なりますが、およそ14世代～17世代前になります。

親から子へ代が代わる間隔(平均出産年齢)の基準ごとに計算すると、以下のような違いが出ます。

・1世代=25年(かつての標準的な計算、婚姻・出産が早かった時代) $427年 \div 25年 = 約17世代前$

・1世代=30年(現代の平均的な間隔、または歴史の長期的な平均値) $427年 \div 30年 = 約14世代前$

ちなみに、427年前は安土桃山時代の終わり頃にあたります。豊臣秀吉が亡くなった翌年で、関ヶ原の戦い(1600年)のちょうど1年前という激動の時代です。その時代に生きていたあなたのご先祖様は、およそ14～17代前の「おじいちゃん・おばあちゃん」ということになります。

中原さんのご先祖様もこの頃、綱を引いていたのでしょうか。だとしたら、どんな思いで綱を引いていたのでしょうか。そんなことを想像すると、この川内大綱引は単なる綱引ではなく、ここ川内に生きる人々の思いを次の世代へと継承する大切な役割を担っていることが感じられます。「ここに生まれたことに感謝したい」という中原さんの言葉の意味がより深く理解できるよう

な気がします。

命の流れ

皆さんが今生きているのは、ご両親がいるからです。そのご両親にもそれぞれご両親(皆さんの祖父母)がいるから皆さんの2世代前のご先祖は4人。そして3世代前、つまり皆さんの曾祖父母にあたるご先祖は8人ということになります。さらに、1世代=30年の計算で14世代前のご先祖様までさかのぼってみると、関ヶ原の戦いが起こった頃、川内大綱引の起源とされる綱引が始まったと言われる頃、この地球のどこかで生きていた皆さんのご先祖の数は、なんと16,384人ということになります。この方々から皆さんのご両親まで命を授かった人々を全て合わせてみると、その数は32,766人。これだけの数の人が、現在の皆さんを生み出すために関わっている。

400年以上もの間には、戦争や飢饉、天災や疫病など、様々な生命の危機があったはずで、その時32,766人のうち誰か一人でも欠けてしまっていたら、あるいは違う人と入れ替わっていたら、今皆さんは絶対に生きていないはずなのに、紛れもなく今ここで皆さんは生きている。これはとんでもない奇跡だと思いませんか。だからこそ、人の命は尊いものなのです。

島津義弘公が兵士の気合い入りに綱を引かせていた頃、16,384人の皆さんのご先祖様がこの地球のどこかで生きていた。当時は、お互い見ず知らずの、何の関わりもなかったはずの16,384人の命が2026年の今、皆さん一人の命に結集しているのです。

このことを考えれば、人間のいがみ合い、争い、憎しみ、いじめなどの事象がなんと愚かではかばかしいことなのかよくわかると思います。逆説的に考えれば、他人を傷つけることは、自分の存在や尊厳を傷つけることにもなる。なぜならば、その相手が、連綿と続く命の流れの中のどこかで、皆さんとつながっている可能性も十分にあるからです。このことは同時に、皆さんは根源的には決して一人ではない、孤独ではないということも意味するのではないのでしょうか。

「ここに生まれたことに感謝したい」

自分の「ルーツ」に思いをはせて、先人に感謝して生きることは、私たちに生きる喜びとエネルギーを与えてくれるのです。